

第3回北上川下流・鳴瀬川環境検討委員会

議事要旨

日時：令和6年9月10（火）15時00分～17時00分

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台西口 5階カンファレンスルーム 5K

第3回 北上川下流・鳴瀬川環境検討委員会 次第 【別紙1】

資料1：現地視察意見交換会 議事録

資料2：北上川下流自然再生計画書（案）〔概要〕

資料3：北上川下流自然再生計画書（案）

資料4：第2回委員会の主な意見への対応状況

資料5：北上川下流自然再生計画書（案）〔概要〕の加筆・更新事項

資料6：事前説明における欠席委員の意見（根本委員・溝田委員）

資料7：北上川下流・鳴瀬川河川環境検討委員会 今後の予定

資料8：環境省からの情報提供

参考資料：令和6年度モニタリング調査結果

第2回北上川下流・鳴瀬川環境検討委員会 議事要旨

現地視察（8/1）の意見交換会の意見紹介（資料1）

議事1：北上川下流自然再生計画（案）について（資料2,3,4,5,6）

※検討の背景として、地域の生態系基盤・原風景・生業の場でもある北上川のヨシ原は震災の影響から回復途中にあるが、広域的な地盤上昇等によりイタチハギ等の外来植物に置き換っている。また、高水敷の乾燥化のため、東北地方で唯一かつ北限のヒヌマイトトンボ個体群の生息環境の悪化が進行している。

- ・令和5年度の河川水辺の国勢調査（以下「水国」）の最新植生図に基づくヨシ原等の分布状況の現況と将来予測、目標、整備効果等について、計画書（素案）から更新・加筆・修正した事項について説明した。
- ・下記の意見も反映することで計画書としては承認された。
- ・目標については以下の意見があった。なお震災前の環境を目標とすることは第2回委員会までに承認を得ている。
 - ・ヨシ原については、震災で消失した陸域もあるため面積割合を目標としつつ、実数として面積も整理する。
 - ・ヨシ原再生は20年に及ぶ長期的な計画となるため定期的フィードバックが大切である。
 - ・ヒヌマイトトンボについては、震災で生息地が消失した北上川河口にも言及する。

- ・高水敷の掘削高については以下の意見があった。なお最適な掘削高の設定については、昨年度から試験施工を開始している他、整備は段階的に行い対応する。
 - ・いかに塩水を引き込みセイタカアワダチソウのような塩水に弱い外来植物を駆除するのも検討課題である。
 - ・整備区間の上流側においてイタチハギ群落を伐採・掘削し、下流側のようなヨシ原が再生・創出できるかは、土質の違いも考えられるため検討課題である。
- ・モニタリング計画については以下の意見があった。なおモニタリングは水国データをできる限り活用する。詳細なモニタリング方法は今後の委員会でも検討する。
 - ・対象種の生態的な位置づけを評価するため、魚類と鳥類は相としても見た方がよい。
 - ・重要種・指標種毎のモニタリングが必要な場合があると考えられる。
 - ・留意種のノウルシ、シロネは、ヨシ原周囲に生育する表現とする。
- ・環境学習については以下の意見があった。
 - ・モニタリング対象は状況把握するため、環境学習の教材として十分活用できる。
 - ・ヨシ原を再生し、ヒヌマイトトンボを容易に見ることができる場になればよい。
 - ・震災前に県管理区間に宮城県が造成したワンドは現在手つかずであり、本計画と連携し当時のように地元小学生の自然観察の場となるとよいと感じた。
 - ・NPOや学生と一緒に議論する場が作れると良い。
 - ・環境の変化という観点で大きな取り組みが行われているということを広め、環境教育につなげていくべき。
- ・生態系ネットワークについては以下の意見があった。北上川・鳴瀬川流域は国内有数のハクチョウ・ガン・カモ類の越冬地となっており本計画との連携を模索する。
 - ・水鳥にとっては安全なねぐらとして広い水面が重要である。北上川河口部等の水面はハクチョウ・カモ類がねぐらや日中の休憩地として利用しており、こうした状況も含めて検討した方がよい。

以上は、当日欠席した委員、オブザーバーからの情報・意見も含む。

議事 2：今後の予定について（資料 7）

- ・事務局から、第 4 回委員会は鳴瀬川の自然再生計画へ移行すること、現地視察を検討していることを連絡した。

議事 3：情報提供（資料 8）

- ・環境省より、生物多様性・ネイチャーポジティブに係る「自然共生サイト」について説明があった。

以上